

# 原子力から地熱へ

東京都杉並区 田椽 秀孝

ご存じのように、自民党政権は、2023年2月に、現存の原子力発電所の再稼働や運転期間延長だけでなく、国民感情を無視して、原子力発電所の新增設さえ閣議決定した。

原子力発電は地震や津波の多い日本では特にリスクが高い。また、放射性廃棄物は、数万年にわたって隔離する必要があるが、その最終処分場の目途さえ立っていない。さらに、原子力発電所が軍事攻撃の標的とされると、大量の放射性物質がまき散らされることになる。

一方、地熱発電は、太陽光発電や風力発電のように発電量が天候に左右されないため、原子力発電と同様に出力が安定したベースロード電源として使用できる。その意味で地熱発電は原子力発電を置き換えるために最適な再生可能エネルギーである。しかも、日本には世界第3位の地熱資源があることがわかっており、その僅か2.3%しか開発されていない。また、日本は、地熱発電設備についても大きな技術的蓄積を持っており、世界各国で地熱発電プラントの建設に関わったり、地熱発電設備を提供したりしている。

したがって、日本は地熱発電に注力することで、内需と外需の両面で経済成長を促進できるとともに、エネルギーの国産化を実現できる。他の再生可能エネルギーでは、太陽光パネルは多くが中国産であり、風力発電設備は欧州産が主流であることから、日本の経済成長への貢献度は低い。

そこで、原子力発電を置き換えるために最も適切で純国産の再生可能エネルギーである地熱発電について、文献などに基づいてメモを作成しました。

下記のアドレス・QRコードからぜひご覧ください。

<http://www.seikatsusha.org/toukou/data/tou-2024/tou-24-09-28.pdf>

